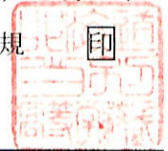


北海道教育委員会教育長 様

北海道当別高等学校長 保 格 秀 規



次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

生徒が楽しく学ぶ当別高校

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 概ね、授業評価をもとに生徒のニーズを踏まえた授業改善を行い、生徒が主体的に学ぶ力を身につけることができた。 【評価：B】 ICTを活用した学習方法を確立し、各教科における「見方・考え方」を定着させることがある程度できた。 【評価：B】。 教科や探究活動における具体的な3観点を生徒に示し、当高力の育成を意識した取組を実施することが概ねできた。 【評価B】 地域の人的・物的教育資源を活用し、三学科の特色や地域のニーズを踏まえた教育活動を実施した。 【評価B】 	<ul style="list-style-type: none"> 探究学習は生徒の成長にとっても良いと思いますので今後も推進をしてほしい。 ICTの積極的な活用を先生個々のスキルだけでは限界があるので、学校全体の課題として取り組みや研修が必要。 生徒が自己評価の結果を受け、自ら何に取り組むべきか考えるプロセスが必要である。 三学科の取り組み状況がわかる情報開示と外部と連携する授業やイベント、外部関係者一覧などが情報共有できるとよりよい。 【総合評価：A】
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の開始時に、その資質・能力についての現時点での自己評価を生徒に記入させ、終了時に再度自己評価をさせるよう、科目ごとにICTによる自己評価サイクルを固定化できるよう検討したい。 ICTの利活用について、他校の実践等を含め、一層の情報提供や研修を行いたい。 学校全体として日常的にどのように生徒の学習を見取り、評価しているのかなどの共通認識を持つための情報共有や研修を行う。 地域の人的・物的教育資源を活用は浸透してきていると感じている。探究とその他教科で教科横断的な授業展開に活用されるよう推進していく。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 概ね、きめ細かな生徒の情報共有により、組織的にいじめの兆しの段階で適切な対応を講じることができた。 【評価B】 生徒との対話を通じて信頼関係を作り、生徒の人格を尊重した接し方を推進した。 【評価B】 生徒の個に応じた社会参画する機会を創出し、生徒の主体性を育成することができた。 【評価B】 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会においても、いじめに関する調査結果や対応状況を議題として共有、課題解決をしていきたい。 時代の流れに沿った指導が必要。生徒からの意見も取り入れながら学校のあり方を検討していくことも必要。 今後も「地域・社会とのつながり」の観点から、町の事業やイベントに積極的に参加いただきたい。 【総合評価：A】
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 学年と分掌で統一した意識を持ち対応にあたる必要がある。また、生徒の気づきを優先した指導方針に対する教員間の意識のズレを研修等を通じて改善していく。 いじめ対策委員会や学校生活委員会との連携を深めて取り組んだ。生徒の様々な困り感に今後も継続して対応していく。 本校の教育活動に協力してくれる地域の方々や当別町少年指導委員会との連携が図れた。今後も継続する。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスや探究活動を活用したキャリア教育を通して、基礎的・汎用的能力を獲得させ、進路目標実現に対する意欲をある程度引き出すことができた。 【評価：B】 地域の方々との連携し、多様な生き方に関する情報を提供することで、自己の生き方に真摯に向き合う姿勢を引き出すことが概ね出来た。 【評価：B】 校内外の諸機関と連携を図り、生徒個々の目標に沿った具体的かつ効果的な進路指導がある程度行うことができた。 【評価：B】 	<ul style="list-style-type: none"> 各学科の特徴を生かしたキャリア指導を推進し、他校にはない大きな強みであり魅力を活かしたキャリア教育を推進してほしい。 探究活動を通じて社会や地域とのかかわり、卒業後の進路について深く考えるきっかけとなっている。今後はさらに総合型選抜や学校推薦型選抜を活用した大学進学にもつながることが期待できる。 個々の目標に対し、長期的なビジョン、人生設計を持たせる（描かせる）ことが必要である。 【総合評価：A】
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりに合ったきめ細かな指導を行うことで、個々の進路ビジョンを明確化し教員全体で情報共有を図り、より組織的なキャリア教育を目指す。 地域の協力を得ながら、学校以外での活動機会を増やし、視野を広げさせる指導の充実を図る。 校内外の諸機関との連携を図り、3学科が持つ学科の特長を生かしたキャリア指導を推進する。 	

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
健康・安全 指導	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関との連携を図り、生徒への指導や援助が概ね適切に行われた。 【評価：B】 ・学校生活委員会の機能と健康相談活動を充実させることで、個の生徒の状況を把握し対応することができた。 【評価：B】 ・Classiを有効活用し、生徒の健康状態について職員間の情報共有ができた。 【評価：B】 ・授業や避難訓練及び防災学校や救急救命講習を通じて防災への意識を高めることができた。 【評価：B】 ・委員会活動等の生徒の主体的な活動により、公共物を大切にする気持ちを育成することができた。 【評価：B】 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけで1人ひとりに対する健康・安全指導を行うことは非常に困難な状況と推察する。引き続き、外部との連携を図って欲しい。 ・心の問題を抱えた生徒への対応は学校のみでは対応しきれない場合も多いと思われる。SCや外部機関を積極的に活用し、一人ひとりに寄り添った対応が必要。 ・日常的なコミュニケーションの仕組みづくりと教職員間の生徒情報還流の仕組みづくりに繋げ他項目と関連して効果がさらに高められると考える。 ・防災学校のように、総合探究と掛け合わせて生徒が企画し学びの場になるような防災教育の実施を良いと考える。 ・スポーツや文化活動を通じた健全な心身の育成という観点から部活動の充実という考えも取り入れていただきたい。 【総合評価：A】
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康教室やスクールカウンセラーによる面談等の充実を図る。また、増加傾向にある心の問題を抱えた生徒に対応すべく、次年度からhyper-QUを導入し、対人関係を築く際に必要なソーシャルスキル尺度をもって、個別の指導計画を教職員が理解することで、生徒一人ひとりに適切な対応を図る。 ・養護教諭やコーディネーターに任せていた面談を次年度より各学年にコーディネーターを置き、迅速により近い教員が状況把握出来るよう改善する。 ・Classiによる欠席確認により情報共有は成された。より一層の活用を検討する。 ・防災学校の実施により防災意識の向上を図った。また、救急救命講習の実施による知識の醸成も継続して図っていく。 ・生徒支援部や生徒会役員による活動は行われたが、より多くの生徒参加型の主体的な活動を目指す。 	
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として基本的な資質・能力を身につけ、地域の課題に対して主体的に考え、取り組むなど、自ら課題を解決できる生徒の育成に向けて取り組むことができた。 【評価：B】 ・集団生活や特別活動等を通じて、コミュニケーション能力や豊かな人間性を身につけた生徒の育成に向けて取り組むことができた。 【評価：B】 ・基礎・基本の定着を目指し、三学科の特色を活かした多様な教育活動と生徒の進路目標の達成を目指したキャリア教育を推進することに向けて取り組むことができた 【評価：B】 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合探究は生徒の主体性も重要ですが、地域課題を大人が提示して、共につくりあげていくような形を目指すのが望ましい。また、地域・先生も無理なく生徒の活動を支えていける仕組み作りのために、支える大人同志も互いの状況を理解し、話し合うことが必要。 ・地域連携、企業連携などこれまでの関係性やコーディネーターの方のご尽力もあり、今後の活動に向けてもさらに発展できる項目だと考える。 ・校長先生自らが動き、地域を巻き込んだ教育活動を展開していることについては、素晴らしいことで評価できる。実際に日々生徒と向き合い指導している先生方が、どの程度校長の経営方針を納得理解し、一緒に学校経営に参画しようとしているのかという点については、どうなのかという思いはある。「チーム当高」で課題解決に向かってほしい。 【総合評価：A】
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の協力やコーディネーターの尽力により、三学科ともに地域や企業との連携は非常に充実したものとなった。次年度以降も推進していく。 ・本校の教育活動に協力してくれる地域の方々やPTAの力を借りて、各種行事において生徒の育成の充実を図ることが出来た。次年度以降も継続していく。 ・商工会、地域企業、コーディネーターとの連携により充実したキャリア教育を推進できた。次年度以降は、そこに製菓衛生師資格取得に係る協賛企業からの協力を頂き、より充実したキャリア教育を推進を図る。 	
公表方法	学校評価書をホームページに掲載	

3 添付資料

- (1) 令和6年度学校評価（教職員）結果
- (2) 令和6年度学校評価（保護者）結果
- (3) 令和6年度学校評価（生徒）結果
- (4) 令和6年度学校評価（学校関係者）結果